

[01] 和の文化表紙奥付等

<https://hdl.handle.net/2324/26570>

出版情報：和の文化. 1, 2012-03-31. NP0法人和の文化研究会
バージョン：
権利関係：



『和の文化』創刊に当たって

NPO法人和の文化研究会理事長 荒木 正見

このたび、NPO 法人和の文化研究会の論文集兼機関紙として『和の文化』を創刊することになりました。

NPO 法人和の文化研究会は、2011 年 11 月 22 日に、それまでの任意団体から法人へ、より発展的な組織へと新規発足いたしました。

研究会設立の趣旨は、「日本人が古来大切に伝えてきた文化を見直し、忘れかけた文化を発掘し、和の文化をわれわれの生活に取り入れて、豊かな日常生活を送ることができるように、研究及び実践活動を行います。（あらゆる宗教、政治信条とは中立の立場をとりません。）」と掲げました。活動の詳細や入会についてはHP：<http://wanobunka.org/> をぜひ開いていただきたく存じます。

この論集に掲載された論文からもお分かりのように、「和」「和の文化」というのはとても難しいことばです。確かに、私たちの現在の文化は「和」ではないものが混在しているように見えますが、「和」とは本来、さまざまな事柄の和合、調和といった意味です。現在の私たちの文化も一種の和ではないかという考え方も成り立ちます。古典的のも、かつて混在しつつ調和を得たものです。

しかし、他方で歴史の意味も考えてみなければなりません。歴史は複雑なダイナミズムでうねりつつ、事柄の余分なものをそぎ落としてそのものの本質を露わにするという働きをします。混在する文化に心が疲れたとき、自分の祖先から受け継いできた遺伝子がふと歴史によって露わになったその地域に伝わる文化によって癒されるということも経験するところでは。

着々と変化する新しい文化も「和」のダイナミズムを持っていますし、その新しいものは人類の発展を意味しますから捨てるわけにはいきません。それが、どのように私たちに定着するのを見定めつつ、新しい文化に身をゆだねるのが私たちの生き方というものでしょう。

そのような流れに身を置きつつ、「自分とは誰か」を考えると、「古来大切にしてきた文化」が恋しくなります。

私たちが「研究会」と名づけたのは、このような心の彷徨のすべてを認め大切にして、未来に結びたいと願ったからです。ムードや趣味にとどまらず、ひとつひとつを研究し、

その成果を、みなさまに分かりやすく楽しく提示させていただきたいと、多くのイベントを行ってきました。

そして、この『和の文化』誌もそのような企画の一つです。

会場を借りて行う企画と異なり、情報として保存できるものです。その特徴を生かして、論文や、企画のご報告など、いわば定着型とでも申し上げたいものです。

情報格納の常として、かねて発表した情報を補ったり、割愛したり、と第2号以降は少々お見苦しいことが起こるかもしれませんが、それも研究や情報のダイナミズムと、お許しくださいませ。

他の意欲的な企画と同様、ちょっと足を止めて楽しみ、考えていただければ幸いです。

そして、多くの皆さまにぜひご参加いただければ幸いです。

2012年3月31日